

kitchen file 13

構成・文＝本間美紀
撮影＝宮本昭二

素材の 居心地、 色の響き

埼玉県・O邸
設計＝RFデザインオフィス 菊地正明
＋ utide 齊藤美紀

きっかけは住み手が見たある映画だった。カリフォルニアと欧州を舞台にした物語。天井の高い西海岸風の建物と、ヨーロッパのシックな素材感。そんな印象が心に残った。

Oさんが家づくりで求めたのは、格子組み風の黒いラインを描く窓枠と、吹き抜けのある建築空間。そして薪ストーブ。インテリアはシックなトーンの響き合うコーディネートだった。まず相談したのはインテリアデザイナーの齊藤美紀さん。その紹介で建築家の菊地正明さんと出会った。建築とインテリア、それぞれの担当者が打ち合わせ、「建築に溶け込む」キッチンができた。

強い色は求めなかったOさんの希望に沿って、ベージュの塗り壁、砂色のタイル、そしてキッチンの扉はアッシュ材の木目。近い色調の中で濃淡のトーンをつけた。ワークトップは“締まる”黒。

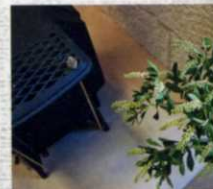
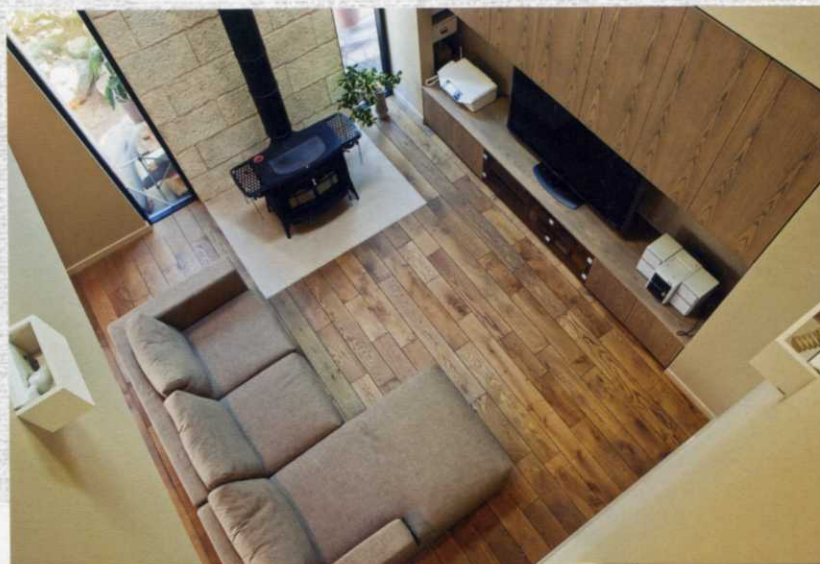
そしてこの空間をちょっと違って見せているのが、背面の収納だ。幅2370×高さ1470mmの大きさの扉。一枚の大きな板のように見えるので、収納ということを感じさせない。家電から食器、乾物まで、さっと開けば、生活のこまごましたものもひと目で見渡せる。キッチン側にも生ごみ処理機やまな板置き場が設置されている。

小ざれに見えるが、実はOさんはかなりキッチンを使い込んでいる。隣棟の両親や夫の夕食、梅酒、燻製、おつまみ、餃子、各種の保存食。手づくりが大好きで毎日、キッチンはフル回転だ。使っていないときは、静謐なインテリア。料理が始まると、温かみを帯びた、いきいきとした空間に。そんな暮らしを生み出すキッチンなのである。

アースカラーで 組み上げる

ダイニング側はホワイトオーク材、キッチン側はタイルと、床材を替えて、心理的な区分けをつくった。キッチン扉は木目を横向きにし、流れるような表情に。





薪ストーブのある
リビングでも食の楽し
高い吹き抜けに薪ストーブ。
オープン代わりに使えるク
タイプをセレクト。ピザやグ
理など、ワインと熱々のお
を楽しむ時間が待ちどしい

kitchen
file 13

収納は「大きめ」が鍵

大きな扉の収納の下には、もともとあったアンティークのチェストを入れられるように設計。また注目はパントリー。キッチンと駐車場の間という、動線のいい位置に、勝手口を兼ねながら設置。食材のストックから料理本まで、何でも隠せる。



